

スニユニユ

版コスニシ

高野 16 147
道新 16 62

4 1111111

No. 3 1 2

35.1.-8

新年の表情

北海道・岩手
東 京・新 潟

迎えた昭和三十五年。

新春恒例の国民参賀が正月二日皇居で行われ、天皇御一家は、参賀にこたえられました。

明治神宮では、雨にたたられたせいか、三日間で一八二万人。日本髪など復古調スタイルは笑いことの他少なかったようです。

馬欄に揺られる雪の北海道。ヨウテイ山麓では恒例のカルタ会が行なわれ、にぎやかな、初の調べが夜のふけるまで流れていました。

岩手県八種開拓村では、分校の開校式が正月元旦に行われました。本校まで八キロの道で、昨年、吹雪にのまれて、当時六年生の生徒が凍死したのです。今年からは、学校が近くなったと父兄の方がよろこんでいます。

あれから四ヶ月、廃虚と化した伊勢湾台風の災害地にも正月が訪れました。配給のオンウニは小供の一食にもみたくない有様、テレビやラジオの音すら聞えないバラック住宅です。かつては、タコあげもできなかった繁華街に皮肉な光景をもたらしています。

白銀ラツシユ

東 京・新 潟

ザイラーブームにあおられて、今年は空前のスキーブームとなりました。

そのあおりをくつたのが年末の始発駅。どつと繰り返したスキーヤーで身動もできない大混雑となりました。こうしたブームにのつて雪のない東京郊外に現れた屋内スキー場も、お正月は押すな押すなの大変な賑いです。

さて本場のスキー場は、これ又、超万員。リフトに乗るまで一時間たつぷりという気の遠くなるような大行列が続きました。

数年来つづいたスキーブームのお蔭でスキーヤーの腕前も相当あがつたようですが、ザイラースタイルに一般品スキーという華かなスタイルにはまだまだ腕が伴いません。

皆、すべつてころんで雪だるま。スキー場に設けられた臨時診療所やスキーの病院、修理屋さん、がチンテコまいの忙しさとになりました。

「ゆきはいよいよ帰りはこわい」怪我をして、たんかのにせられて帰るスキーヤーも今年はぐつと増加。ブームを通りこしてラツシユにあけた今年のスキー新年風景を東京と新潟に訪ねました。